

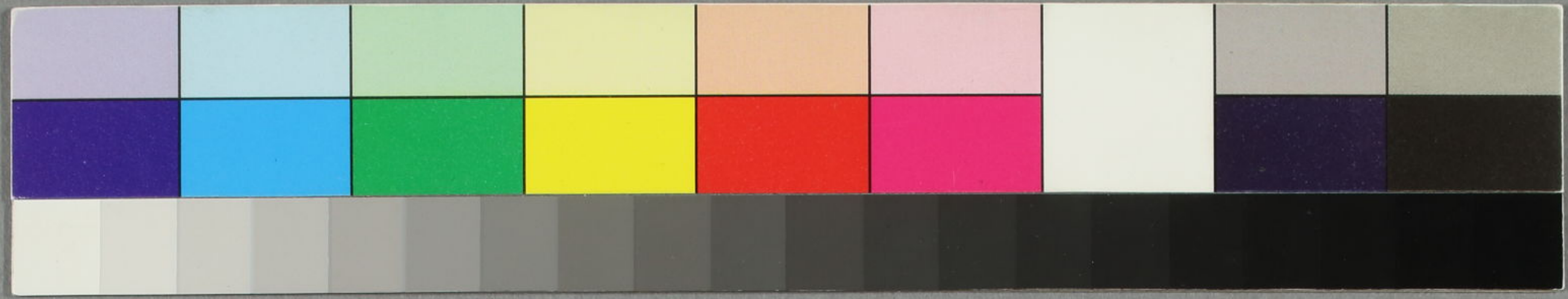
海左堂系問  
 江戸版

問  
 道

特別  
 千 13  
 3849  
 36







後者ト案ト選見

藝水定

系之卷目録

高山石

親ノ似ハぬハ鬼ノ殺ス

交ハ似ハぬハ書ハ公ノ而ハハ

妹ト似ハぬハ公ノ而ハハ

折チ立チハハ陰マ馬ノ地ノ也ハ

似ハぬハ

前



金龍

五

36





人を揮すほ扇あ本もとノ

馬うま々々乞こる

浪なみ戯あそ聖せい

後のち 山やまハ接つ交ま雲くも々々

引ひ幕まくら

絮こ乃の色いろ俾ま判はん

雅たれ色いろ  
いそく

京きやう田でん条じょう二に三さん五ご番ばん類るい設せつ者者目め録ろく

各おの行おこな早はや雲う長ながをを又また尾お市し山やま脚あしをを而を而を

尾お上かみ之の采さい脚あし  
尾お上かみ之の而を

立た設せつ之の部ぶ

○立た設せつ外の外のの名な亦また有ありますす

本もと上かみ吉きち 尾お上かみ菊きく又また而を而を

尚なほ有ありますすとと有ありますすハハ八はち坂さか

上かみ上かみ吉きち 山やま嵐あらし三さん又また而を而を

男おとこ山やま

上かみ上かみ吉きち 小こ川がわ表あをを而を而を

去ことと六むのの小こ角かくののあありますす

上かみ上かみ吉きち 尾お上かみ紋い之の而を而を

けけののあありますすとと有ありますすハハ八はち坂さか

上かみ上かみ吉きち 中なかつ村むら十じゅう花はな

大おほ津つ吉きち

上かみ上かみ吉きち 尾お上かみ新あらた七しち

款くわん設せつとと有ありますすとと有ありますすハハ八はち坂さか



上上吉 坂東 弥助 尾上

物とさても白ふの黒公

上上吉 山嵐 十市 尾上

はたのあはれを身の南福寺

上上 柳山 小四市 尾上

親父頼みはさへんと松の尾

上 市山 助又市 尾上

はたのあはれとあがの支助寺

上上 松原 新十市 尾上

上下とさてもあがの安井

去役 上上吉 中山 文七 尾上

芝油 藤の仕組のあがの大伴

▲実徳之部

上上吉 中村 秋右衛門 尾上

あがのあはれとあがの松尾寺

上上吉 浅尾 為十市 尾上

あがのあはれとあがの狼谷

▲歌波之部

上上吉 山中 平十市 尾上

あがのあはれとあがの桂川

上上吉 大谷 友右衛門 尾上

あがのあはれとあがの吉田

上上 市川 宗三市 尾上

あがのあはれとあがの橋の邊

上上吉 松平 友十市 尾上

あがのあはれとあがの松平

上上 中村 春十市 尾上

あがのあはれとあがのふり草

上上 嵐 金 素 尾上

あがのあはれとあがのふり草

上上 山下 新又市 尾上

あがのあはれとあがの雲合

上上 中村 徳又市 尾上

あがのあはれとあがの雲合

上上 山下 清 尾上

あがのあはれとあがの雲合

上上 中村 久 尾上

あがのあはれとあがの雲合



一上小倉山三尊殿尾 一上市川井尊殿尾  
一上浦山七入帝市 一上林山付尊殿市  
一上小倉山兼八市

▲美女形之部

上上吉 中村貞代三 三尊殿尾  
熱のみみひていしんまぬとて

上上吉 中村久保右衛門 尾尊殿  
ちの打とてていひんく 智恵院

上上吉 山下金作 市尊殿  
ふりてお持のさういひえの山

上上吉 桐屋谷秀松 尾尊殿  
當年もいし南地し縮

上上 中村松竹 市尊殿  
舞小実がのりてすまのさき

上上 嵐仙之助 尾尊殿  
とてやうみいろのわら 芝居

上上 林山千景 目尊殿  
いしんまぬとていひんく ちが谷

上上 中村依燈八 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

上上 林山四喜右衛門 目尊殿  
わまの舞がそあてていしんまぬとて

上上 生徳菊次郎 尾尊殿  
いしんまぬとていひんく 清水

上 尾上久米助 市尊殿  
おれがふいしんまぬとていしんまぬとて

▲市山死及ふし分

一三株徳次郎 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

一中村松三郎 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

一山下乙吉 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

一三株徳次郎 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

▲美気形之部

一市川長太郎 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

一中村長太郎 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて

一尾上久米助 市尊殿  
とてやうおがまていしんまぬとて



上上 吉 後川山 吾 尾上丸

上上 中山と二帝 赤山丸

極上吉 赤巻油 中山新九郎 日丸

久しうふて川高北、小堂

かめどの実恵云々其まをの芝居、  
とあるまうしと改智名をいふせやとま

元和四年冬三月十八日 俗名

覚成院宗昌日久 行年五十六才

○此のまをの

新板よみおん あはれ 尚世行次牙 全五冊

ひしり子孫入 あはれ 西を指が風俗と其後が他意小福らひ

あてる産標的引介 あはれ 叔を懐妊印、流

仍水の碧月古と化 あはれ 工更仕物、今廿四附

○秋 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ

秋の心 あはれ 秋の心 あはれ 秋の心 あはれ































本居宣長の書

上上書 中村十道

中村十道は、

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

上上書 坂東 弥助

坂東 弥助は、

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

宣長の書に

上上書 由 林山小四郎

林山小四郎は、

宣長の書に

宣長の書に











Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a section of a manuscript. The text is dense and fills most of the page.

上上書 ① 後尾為十帝

Handwritten text following the section header, continuing the narrative or list.

Handwritten text on the left page, continuing the narrative or list from the right page.











中村村長十郎一書

上上 中村村長十郎一書

此書は中村村長十郎の書である。内容は、中村村の歴史や地理、そして村長の職務について詳しく記述されている。また、村の発展や住民の生活についても触れている。この書は、中村村の歴史を知る上で非常に重要な資料である。

上上 風 全書 一書

此書は、風に関する全書である。内容は、風の種類、性質、そしてその影響について詳しく記述されている。また、風を避ける方法や、風を利用する方法についても触れている。この書は、風に関する知識を深める上で非常に重要な資料である。

中村村長十郎の書である。内容は、中村村の歴史や地理、そして村長の職務について詳しく記述されている。また、村の発展や住民の生活についても触れている。この書は、中村村の歴史を知る上で非常に重要な資料である。

上上 中村村長十郎一書

此書は、中村村長十郎の書である。内容は、中村村の歴史や地理、そして村長の職務について詳しく記述されている。また、村の発展や住民の生活についても触れている。この書は、中村村の歴史を知る上で非常に重要な資料である。























上上吉 竹田万六 竹田萬六

上上 竹田常市 竹田常市

上上 竹田守之松 竹田守之松

上上 竹田時茂 竹田時茂

上上 竹田万吉 竹田萬吉

上上吉 竹田福茂 竹田福茂

▲為形之部

上上吉 中村松代 中村松代

上上吉 三條本秀松 三條本秀松

上上吉 依盤川高松 依盤川高松

上上吉 中村長吉 中村長吉

○印と四ツヤと

一系此下は... 己未年七月八日... 幸一...

上上吉 太田護政 太田護政

▲為形之部

上上吉 中村虎茂 中村虎茂

上上吉 山嵐吉三郎 山嵐吉三郎

上上吉 中村茂茂 中村茂茂

上上吉 中村若茂 中村若茂

上上吉 尾上松之助 尾上松之助

上上吉 市川虎茂 市川虎茂

上上吉 山下徳治市 山下徳治市

上上吉 清尾信之助 清尾信之助

上上吉 中村忠十郎 中村忠十郎

上上吉 山下系茂 山下系茂

▲為形之部

上上吉 山嵐小雛 山嵐小雛

上上吉 藤野勘吉 藤野勘吉



上上書 尾上八流 からら八くも  
きりりき世

千のハ際終一まうの

明和八年子正月吉日

末書可也の頁下トル可

八文字登八公為板

○山形ノ上ハ

毎月改

於清系  
細見ノ号

一目ノ終 全一冊

毎月改

左板終所  
細見ノ号

みぎぶと 全一冊

右ノ本ノ先達ニヨリ出

並ハハ乃以水ノ以後ノリ  
以下ハハ形上ハハコト

板元

波者堂集選 藝由堂

大坂之冬目錄

去んを新町 しん  
かた 乃

かた  
ひ

飛風 とふり  
かぜ 乃

かた  
ひ

くろく くろく  
かた 乃

歌中 たか  
な 乃

作







上上音 山嵐 表二帝 日九

上上 市燈川二帝 中九

正沢村徳帝 三上三沢川帝 中

正風助十帝 中上中村徳帝 中

上上音 坂東巻二帝 中九

上上音 相澤後九帝 日九

上上音 深川け巻清 三九

上上音 坂東巻二帝 中九

上上音 坂東巻二帝 日九

上上音 嵐七又帝 中九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

上上音 三井地人 日九

一志よりといひ御判がき 仄字

まはりの湯のうまの 韻字

あはれは後(保)とて 楚字

恰好いさゝか 大文字

はたみおのあけ 雑字

懐い中み 雑字

ユが 入字

初め 小篆字

為合 文字

三上 中

三上 中

三上 中

三上 中

三上 中

三上 中

三上 中





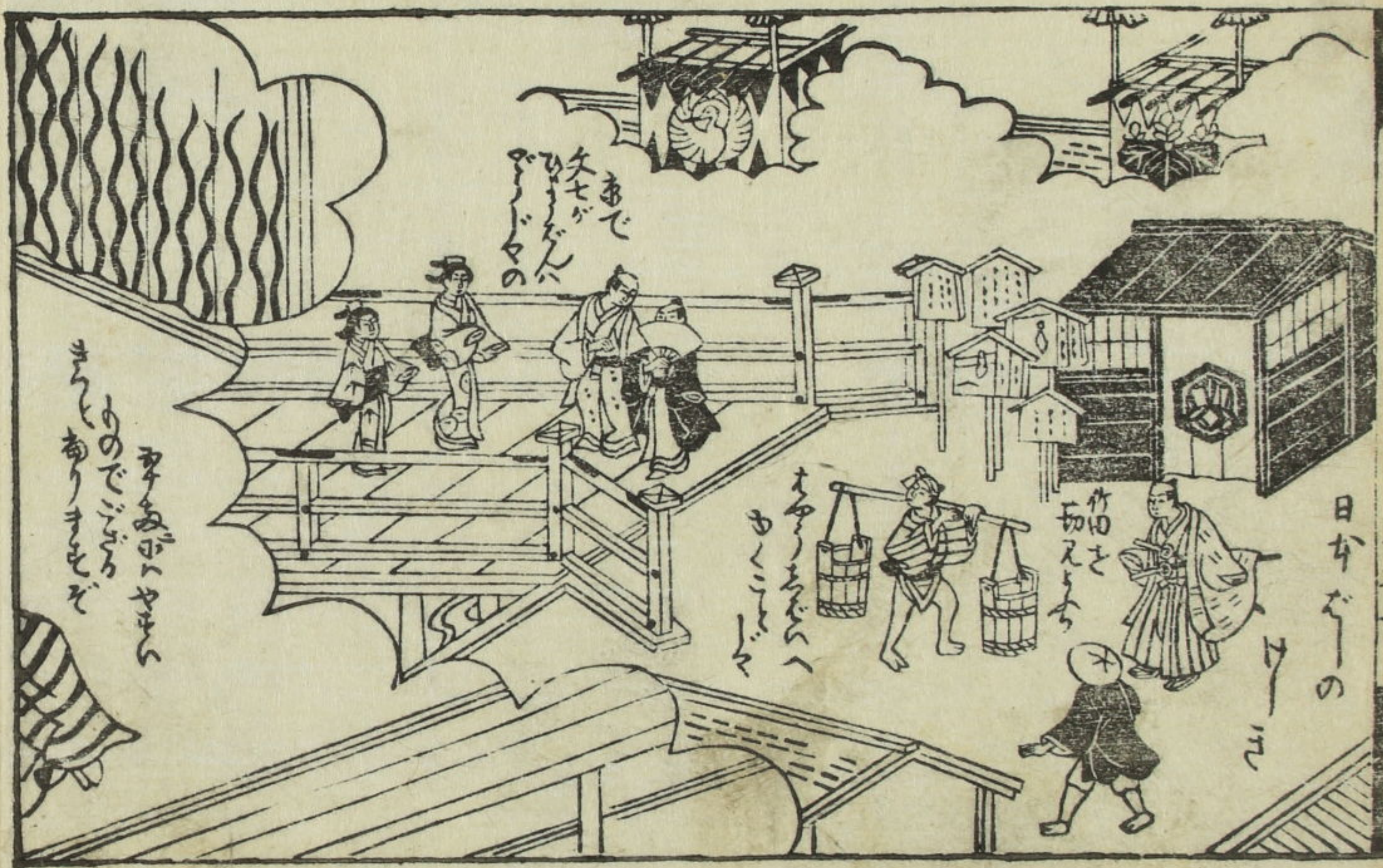












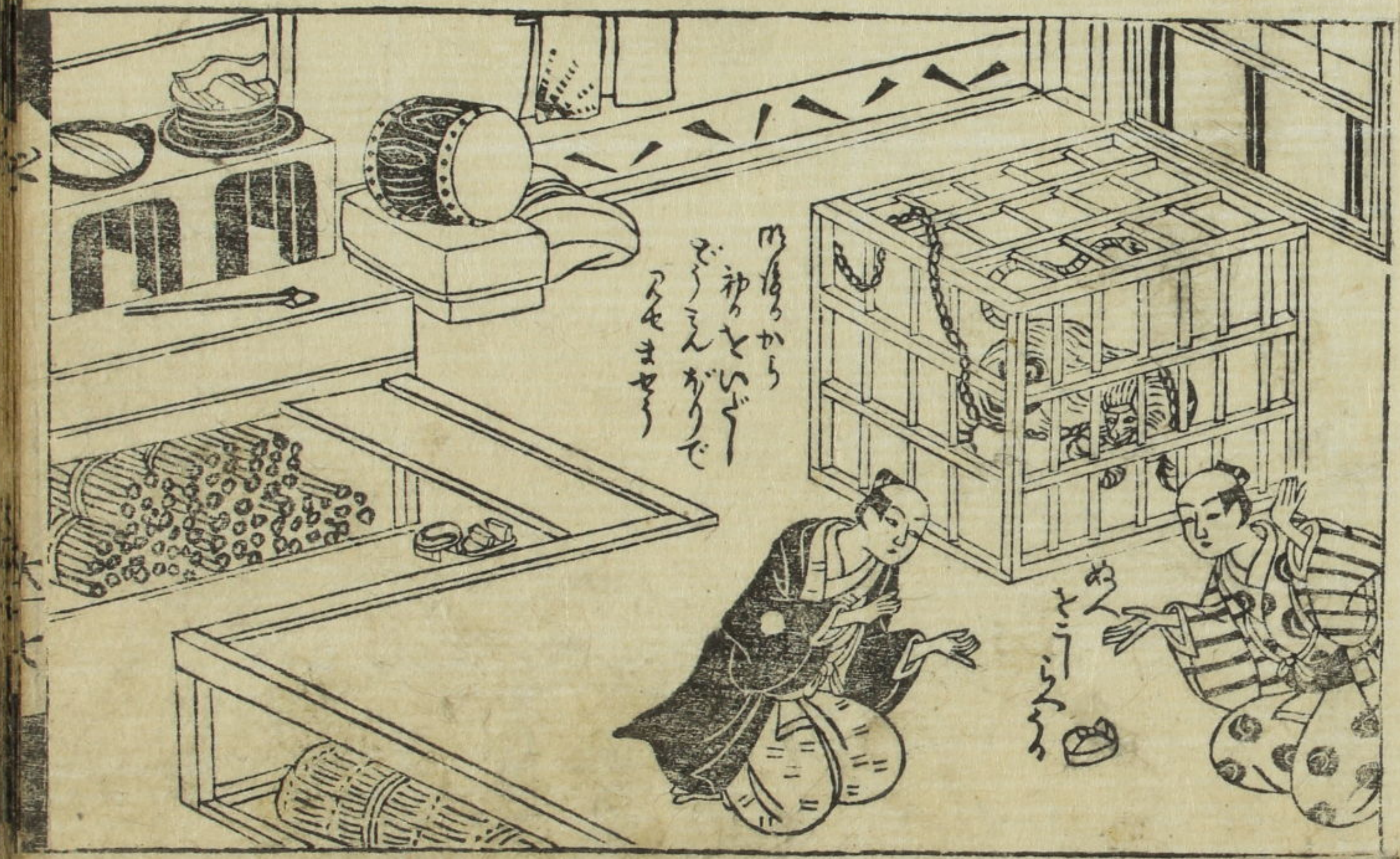
あて  
文七  
ひん  
の

あて  
文七  
ひん  
の

あて  
文七  
ひん  
の

あて  
文七  
ひん  
の

あて  
文七  
ひん  
の



あて  
文七  
ひん  
の

あて  
文七  
ひん  
の




















  
 去てんりまひぶるめいご  
**四天王舞鶴扇子**  
 三毒後  
 三林社  
 天十一月二日  
 中村 千花



中村吉ちち

おくちち  
 中村  
 富十良

母能をま  
 小えり  
 姉川大吉

お日  
 山下伊勢屋  
 姉川大吉  
 八花  
 小えり  
 わせあ  
 乙女  
 かの川  
 まい子

ここの  
 ひろつる  
 鬼七  
 山嵐三良  
 坂東  
 岩五良

あべの  
 三林  
 大五良

中村  
 吉ちち

多川 漆 ちりよ















なる事も方々も然る事ありて  
もたれども其の事なきが如く  
りて其の事なきが如く

▲歌後之部

上上吉 ④坂東若入帝 一舞

⑤古事記に云く勸修の事ありて  
依る所なき事ありて其の事なき  
と云ふ事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
此と云ふ事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり

上上吉 ⑥嵐 七八節 中上

⑦古事記に云く嵐の事ありて  
其の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり

⑧古事記に云く嵐の事ありて  
其の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり

上上 ⑨三神化人 九中

⑩古事記に云く三神化人の事ありて  
其の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり  
の事なき事ありて其の事なき事あり







中上世 谷 益 谷 又 花 中 花

上 上 世 谷 益 谷 又 花 中 花

▲乃介形之部

上 中村九花 三種花

▲花車形之部

上上 山林新入部 二種花

此部は...

上 ① 吾毒花...

▲養女形之部

上 上 吉 福 芳 澤 の や め 中 花

此部は...

此部は...

此部は...

此部は...

此部は...











の...  
...

上上 鱧加藤川 鱧 鱧

...

...

...

...

...

...

...

...

上上 山下 俣野 鱧 鱧

...

...

...

...

...

...

上上 鱧川 鱧 鱧

...

...

上 鱧川 鱧 鱧

...

...

...

上上吉 鱧 中村 鱧 鱧

...

...

...











大坂又平岡川分てに後子ありて  
しうし平方は飛切共ふとてり中を

竹田 俾 八 後

去り後天てふま三は飛出中し

竹田 樞 雲 日

ふりて海二後う 出鶴一也

市山 高 三 節 葉

ありて去後石橋由身中しとて

嵐 去 次 節 日

とてよ飛後て中しとて

山科 十 甚 去 日

橋本 歌 五 後 ありは飛とて

山科 越 又 節 日

おごり飛あつき二後てとて

竹田 布 雲

ぬれとて去りは飛て中しとて

竹田 次 節 去

とてれ去去は飛とて中しとて

竹田 舟 雲

かてはは飛とて中しとて

秋 龍 千 次 節

かてはは飛とて中しとて

中しとて

大坂丸屋社に熱波若月源

衣代着在仙作節は中嵐依龍八

猶魔法禁二症 熱名は暖 今所鼓成

天竺法系 二舞娘鏡 三の口 三九徒

けりて保 團入 中の巻 口 切

中しとて 中しとて 中しとて

▲五波之部

極上吉 小野川 糸 跡

猶魔一着入後若源氏小大流の後

約瓶の和他出中しとて中しとて

上上吉 後川 若 雲

中しとて中しとて中しとて中しとて



上上吉 松幸 必十席

船渡津屋渡切若かりりる

上上吉 若川 音若

仲秋後天の辰二を後で終り

上上吉 山下 徳十席

この後天の辰の辰後商の事

▲実地之部

上上吉 嵐 波野 八廿四

後天の辰の辰の辰の辰

上上吉 山村 在若

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 坂 東 解 密 若

二千辰の辰の辰の辰の辰

▲歌後之部

上上吉 中村 文若

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 嵐 清 若

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 嵐 万 若

この辰の辰の辰の辰の辰

上上 柳川 榮八

この辰の辰の辰の辰の辰

▲若女形之部

上上吉 柳川 榮三席

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 嵐 三 勝

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 玉川 高流

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 若井 八十七

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 嵐 雲 野

この辰の辰の辰の辰の辰

上上吉 篠塚 八重若

この辰の辰の辰の辰の辰

この辰の辰の辰の辰の辰



上上 嵐富士之助

大らう中村没大て八千歳八江を巻く

上上 清尾孫右衛門

いそ葉孫没大とてふいそく

そ卯ハ略後一ちりこ

大坂堀江東側芝居越後若国藤

長代中村文三郎元中荒木与次郎清

神目元之助

清名の阪

忠臣徳兵衛

境の阪百十内之阪

越前守右衛門

揚屋後後徳の阪

▲立没之部

大上吉 荒木与次郎清 元中

いそわやとて没大いそく

だのせんと没大いそく

上上吉 花相在右衛門

五百十三没大とて没大元中

上上吉 中村十吉

大抱とて大抱とて没大元中

上上吉 嵐 正三

長とて大とて没大いそく

没大とて大とて没大いそく

上上 沢村清次郎

いそ秋月とて没大いそく

▲実没之部

大上吉 柏井 貞吉

神目元之助没大とて没大いそく

上上吉 若川 喜右衛門

いそ公直守子とて没大若川と没大勤

いそ松平とて没大いそく

上上吉 竹中 綱八

いそ山とて没大百連没大とて

▲敬没之部

上上吉 嵐 龍右衛門

いそわやとて没大いそく

上上吉 中村 清次郎

いそ大とて大とて没大元中



上上吉 松平辰翁三

けま致るふは東坊後よりてく

▲美如形之部

上上吉 尾上小三郎

美登十三女坊後よりてく

上上吉 深妻小仙

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 中村菊之部

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 岩田深妻

とがの味後よりてく

上上吉 芳沢八重菊

あま二波子よりてく

上上 岩村外山

けま致るふは東坊後よりてく

上上 柏井新三郎

けま致るふは東坊後よりてく

上上 山下一三子

大坂五福天神社御後者同縁

長代寺後登要論辰平 岩田百重

十波抄よりてく

けま致るふは東坊後よりてく

井内通 河内通

▲三波実魚款後辰平

上上吉 沢村吉

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 岩田百重

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 相模谷徳次郎

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 岩田深妻

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 山下一三子

けま致るふは東坊後よりてく

上上吉 山下一三子

けま致るふは東坊後よりてく



上上吉 嵐 岩 雲

えらき後母行る秋の三波大志

上上吉 岩田文彦

大と巻八丹内巻あけいせ

上上 端川仙太郎

ひまらこの後三十七は竹の

▲美妙形之部

望上吉 水本春三郎

まぐろの梅二波左切老く

上上吉 山下謙川

ふきまきつひまの二波出まき

上上吉 端川 綱吉

かといと後二波大志とまき

上上吉 岩田春彦

あざの金又かま三波わがまき

上上吉 小坂川 せいの

ひまらこの井内後三波とまき

まがの味くまき

後者業業選 藝品定

江戸巻目録

塩のりしほは淡路あまのり

味噌みそもすの物ものがみ

うめうめの体たい置おきはあて

ぬれぬれをいひ

うめうめでいひ

せん



船乃志くまの

傘と帆の

月をやどるに

雲のあはれ

末

肺が葉より

肺のあはれ

芝居評判

身乃潤ひ

以上芝居執役者同録

この所 中村勘三郎

ふきも河 市村羽左衛門

こびり河 夷田勘次郎

▲立波之部

榊上吉 市川團十郎

上上吉 市川團十郎

上上吉 沢村宗十郎

上上吉 坂東三三

市川三郎

坂東三三

大勢もはびかる男の星



大谷 廣 治 中村

上上吉 市川八百蔵 中村

上上吉 坂東三津又市 中村

上上 三津又市 中村

市川深又市 中村

中村務又市 中村

松平秀十市 中村

上上 上坂東市 中村

上上 市川後茂 中村

▲実悪之部

上上吉 坂田中又市 中村

上上 松平幸四市 中村

上上 中村伸 中村

上上 大谷廣又市 中村

上上 中村三南又市 中村

上上 坂田佐十市 中村

市川修達又市 中村

▲敬後之部

上上 坂東又市 中村

上上 中村助又市 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村

上上 中村信 中村



上上

富川三た赤門 富川

中流三南流 中流

中流勳た赤門 勳た赤門

何方が出入り久しきで出入り

上上

津打門三赤門 中流

正市川順々 中上松幸大七中

正市川徳流 中上文清八流中

正市川文流 中上中村久流中

正中村忠流 中上中村大五流中

正坂赤又八 中上松金忠九流中

正坂赤松流 中上坂赤重流中

正坂村智流 中上大谷忠八流中

正坂田屋 中上中村信八流中

正大谷流 中上中流信八流中

正大谷大八 中上坂赤力流中

正坂赤約流 中上坂赤力流中

上上

文清十四流 中村久

實に思ふもつらき放下流

▲乃外形之部

本吉

嵐音八 中村久

かゝるこゝろにぬれぬ

上上

市川久流 日流

足るけりこゝろと云ふなり小社

上上

沢村字十流 中村久

ゆゆしきぬきか新世帯

▲親江方之水

上上

山中平九流 中村久

政政流の世帯に正流運着

上上

佐川新九流 日流

親江の流に流るる流流

▲花車形之部

上上

市川因又流 中村久

幸考てもひりし流流



上上

坂東堂十席 虎田丸

上

尾田東之席 日丸

北詰

若女形之席 中村丸

上上吉

吾善者 虎田丸

上上吉

中村丸 中村丸

上上吉

尾上中川助 日丸

上上平

若井半之席 中村丸

上上

山下系之助 虎田丸

上上

文彦兼松 日丸

上上

中村秀松 虎田丸

上上

中村富治 中村丸

上

市山錦 中村丸

上

尾谷十次席 虎田丸

上上吉

王風小太席 市上芳次山八中

上上吉

依登川市松 虎田丸

上上

市川 中村丸

口丸一とあるは髪丸



上止 沢村茂又帝茂村茂

一上坂東幼帝皇太子の位に即位す

▲中村茂子分

一市川虎七中村茂子

一市川年茂中村茂子

一市川三治中村茂子

一市川仙傳中村茂子

一市川仙傳中村茂子

▲市村茂子分

一龜谷十八中村茂子

一風兼重中村茂子

一風子乃中村茂子

一市川茂子中村茂子

▲市川茂子分

一市川茂子中村茂子

一市川茂子中村茂子

一市川茂子中村茂子

一藤原合孫中村茂子

▲子茂之部

一上吉 沢村良又帝中村茂子

一上吉 市村若又帝中村茂子

一上吉 沢村茂又帝中村茂子

一上吉 沢村茂又帝中村茂子

一上吉 沢村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子

一上吉 市村茂又帝中村茂子



坂東御成市 一坂東御成市 市  
一坂東御成市 市 一坂東御成市 市  
一坂東御成市 市 一坂東御成市 市  
一坂東御成市 市 一坂東御成市 市  
一切の御成市 市

▲舊切之部

上上吉 富沢辰十郎 市川

上上吉 坂田辰十郎 市川

上上吉 沢村森十郎 中村

切上吉 中村七三郎 市川

▲お史元之部

上上吉 中村勘三郎 市川

大上吉 市川辰十郎 市川

上上吉 坂田勘三郎

不出美世能 市川七三郎 市川

一板のよきものやまきもの御成市  
の意波去及まの芝居(市川辰十郎)  
坂田辰十郎と市川辰十郎

昭和四年一月廿二日  
蓮花院 評行 市川辰十郎  
行年四十四才

○けあつての御成市

他者自笑

没者言葉葉花 全部  
三冊

附 石橋の御成市  
市川辰十郎の御成市



京州小島きき橋たむらひ

繁華 綿糸より二舞臺衣の

きき来てまわこれ上手技

蕪花みきりた地金井

荒華舞臺一坪れき後代

さうがのくわまは芸士技

難波よきみの大江の屋

男徳頼 じりふおねれしりし

世小大坂乃利者技

右も来れ三月節句の中出か

そまは内来は後つらりけり

○急流をこし浪浪の磯別松

此日遊遊遊美其時歌舞入娼家娼家

美女舞金杏飛去飛來公子傍的梨

簾白日映娥娥玉顏紅粉粉と懐すも

儂風も色の中中よけてる月夜

又もよす中町小き道細流の花をさ

羽の蝶々扇とあて香かき寄る着け

風をよす風の中中よけてる月夜

時不融大島の河津院小かひては流

系のもも風の中中よけてる月夜

去る雲の影さかきと雲霞はのち

以の雲は舟中橋の影さかきと雲霞

ちり雲霞は舟中橋の影さかきと雲霞



























































おがしんねんぬのほりては揚がたふく

上上 回 市川伝達花 中村

啓曰く美事神は流るるに安んずるをいふは行の

▲歌波之部

上上 出 坂東又吉席 一 中村

啓曰く美事神は流るるに安んずるをいふは行の

十所治美神の御名目録に云く美事神は流るる

ゆふゆふと流るるに安んずるをいふは行の

の御名目録に云く美事神は流るるに安んずる

ゆふゆふと流るるに安んずるをいふは行の

上上 仙 中村幼八席 一 中村

啓曰く美事神は流るるに安んずるをいふは行の

附来りては流るるに安んずるをいふは行の

ゆふゆふと流るるに安んずるをいふは行の

上上 楽 中村傳 一 中村

及真夜は有様は流るるに安んずるをいふは行の

ゆふゆふと流るるに安んずるをいふは行の

上上 鳴川 二方席 一 中村

上上 中島三浦花 一 中村

上上 中島幼丸門 一 中村

啓曰く美事神は流るるに安んずるをいふは行の

三浦花は向平と云流るるに安んずるをいふは行の

傳は上流るるに安んずるをいふは行の

ゆふゆふと流るるに安んずるをいふは行の

上上 津打門 三席 一 中村

啓曰く美事神は流るるに安んずるをいふは行の

流るるに安んずるをいふは行の

上上 又高十席 一 中村



賢良の爲に先王の徳を以て行はば流く

▲乃卯形之部

本上吉 ④ 嵐 音 八 中 吉

【賢良】  
【乃卯】  
【形之部】  
【本上吉】  
【嵐】  
【音】  
【八】  
【中吉】

上上 回 市川 久前 日

上上 甘 沢村 十前 音

【市川】  
【久前】  
【日】  
【甘】  
【沢村】  
【十前】  
【音】

▲親化形之部

上上 ④ 山中 平九前 音

上上 川 依川 新九前 日

【山中】  
【平九前】  
【音】  
【川】  
【依川】  
【新九前】  
【日】

▲花車形之部

上上 回 市川 固又前 音

【市川】  
【固又前】  
【音】

上上 津 坂 東之十前 音

【津】  
【坂】  
【東之十前】  
【音】

▲若女形之部

上上 吉 ④ 市川 菊之 中 音

【市川】  
【菊之】  
【中】  
【音】



















上上 田 文倚菊 松 貴  
上上 中村秀 松 貴

上上 中村富治 貴  
上上 沢村孝 松 貴

上 市山綿 貴  
上 志若十次郎 貴

上上吉口 芳次倚之物 貴

上上吉口 芳次倚之物 貴

上上吉口 芳次倚之物 貴

▲ 丸尻形之部

上上吉 同 依道川市松 貴

上上吉 同 依道川市松 貴















我々海内之志士等、此の捕らざるに  
吾等海内志士等、此の捕らざるに

上上吉 東回勅 孫

醫書附文法伝とて出勅の事、  
二書指の大人、其の及下、古来記、  
指の及下、其の及下、古来記、  
と云、然るに、七書納ぬ

明和八年

五月廿七日

系書町、此の及下、古来記

八文字、此の及下、古来記



